

令和6年（2024年）の硫黄島の火山活動

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター
沖縄気象台地震火山課

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

○ 噴火警報・予報の状況、2024年の発表履歴

2024年中変更なし	噴火予報（活火山であることに留意）
------------	-------------------

○ 2024年の活動概況

7月に第十一管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、硫黄岳火口底及びグスク火山の火口北側内壁の噴気孔で、同海上保安本部による2023年10月の観測に引き続き、白色の噴気を確認されました。また、島の北西岸で緑白色～緑色の変色水域の分布が認められました。

9月及び10月に気象庁の海洋気象観測船（凌風丸及び啓風丸）が実施した海上からの観測でも、引き続き、硫黄岳火口及びグスク火山火口周辺で白色の噴気を確認し、風下側で硫化水素臭を確認しました。また、10月の観測では硫黄岳火口付近の海岸で変色水域が認められました。



図1 硫黄島 硫黄岳火口及びグスク火山火口の位置

この資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

この資料は第十一管区海上保安本部のデータを利用して作成しています。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』を使用しています。

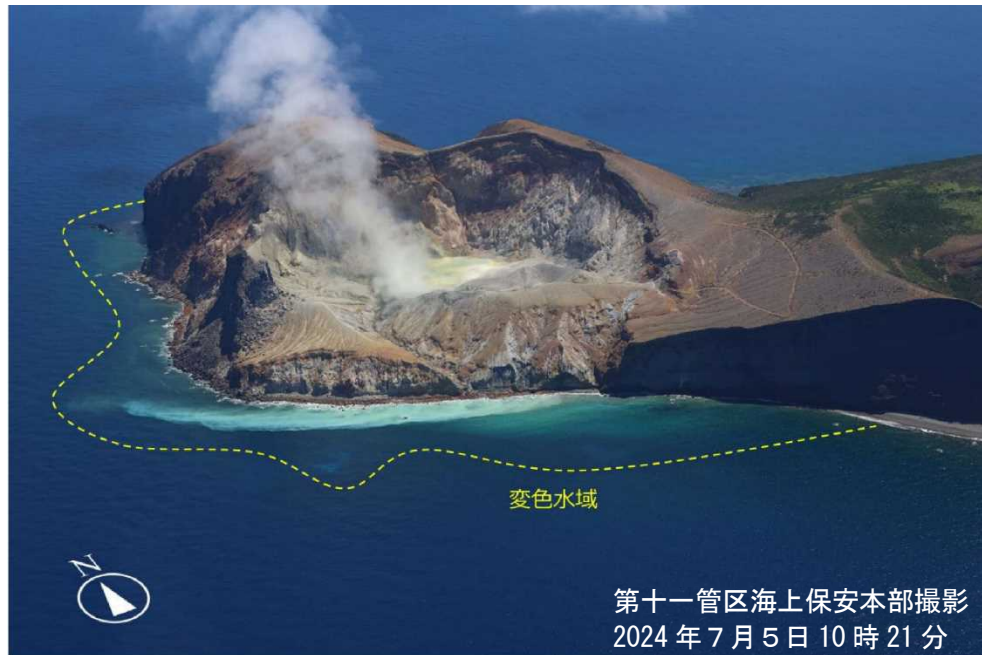


図2 硫黄鳥島 硫黄岳火口周辺及び変色水域の状況（7月5日）

- ・第十一管区海上保安本部が7月5日に実施した観測では、前回の観測（2023年10月4日）に引き続き、硫黄岳の火口底から白色噴気の放出が認められました。また、島の北西岸に緑白色～緑色の変色水域が認められました。前回の観測でも、島の西岸で茶褐色～緑色の変色水域の分布が認められています。



図3 硫黄鳥島 グスク火山火口の状況（7月5日）

- ・第十一管区海上保安本部が7月5日に実施した観測では、前回の観測（2023年10月4日）に引き続き、グスク火山の火口北側内壁の噴気孔から少量の白色噴気の放出が認められました。



図4 硫黄島 硫黄岳火口周辺の状況（9月24日）

- ・第十一管区海上保安本部が2024年7月に実施した観測（図2）に引き続き、硫黄岳火口から白色噴気の放出を確認しました。

2024年9月24日9時34分
海洋気象観測船「凌風丸」より撮影



図5 硫黄島 グスク火山火口の状況（9月24日）

- ・第十一管区海上保安本部が7月に実施した観測（図3）に引き続き、グスク火山火口周辺で少量の白色の噴気を確認しました（写真から判別できませんが、目視観測で噴気を確認されています）。



図6 硫黄鳥島 硫黄岳火口周辺の状況（10月16日）

- ・ 9月に実施した観測（図4）に引き続き、硫黄岳火口から白色噴気の放出を確認しました。



図7 硫黄鳥島 グスク火山火口の状況（10月16日）

- ・ 9月に実施した観測（図5）に引き続き、グスク火山火口周辺で少量の白色の噴気を確認しました。



図8 硫黄島 変色水域の状況（10月16日）

- ・硫黄岳火口付近の海岸で変色水域が認められました。